

(熊本県立水俣高等) 学校 平成 27 年度学校評価表 (定時制)

1 学校教育目標
「平成 27 年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」等を踏まえ、本校の校訓「自律・敬愛・創造」の具現化に努め、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、徳・知・体の調和のとれた全人教育の実践を目指す。

2 本年度の重点目標
<p>本年度の指導の重点スローガン・・・「着実な前進」</p> <p>(1) 教育活動全般をとおして他者を思いやり、秩序ある学校生活を営む態度を育成する。</p> <p>(2) 心身の健康を保持増進する力を段階的に高め、体育的活動をとおして、自らスポーツに親しみ、体力を高める態度を育成する。</p> <p>(3) 生徒一人ひとりの特性や学力にあった学習活動を展開し、自ら学ぼうとする意欲や態度を育てる。</p> <p>(4) 面談等を活用し生徒理解に努め、生徒一人ひとりの特性を早期に把握するとともに、働きながら学ぶ環境を整え、各人の進路目標達成に向けた指導を計画的に行う。</p> <p>(5) 学校の教育活動や生活状況を保護者に周知し、連携しながら生徒の育成に努める。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理による学校運営の推進	学校目標の理解と重点指導の徹底	年度末の本評価で、B評価以上が全体の9割以上とする。	校長の指導のもと、全職員一丸となって組織的に取り組む。	B	教育目標が全職員に概ね理解され、学校全体としての取組ができています。今後は目標達成に向け、校務分掌等の連携をさらに深めていく必要がある。
		生徒理解と課題・指導の共有化	学期に1回以上、生徒理解のための研修会を実施し、情報を共有する。	教務部・生徒指導部が立案し全職員で連携して取り組む。	B	生徒理解研修会や日々の職員連絡会等により、生徒個々の課題を共有できた。組織的な対応力については更に向上を図る必要がある。
	安全で安心して学習できる教育環境づくりの推進	安全点検と緊急事態対応の徹底	教室・施設等の安全点検と危機管理マニュアルを踏まえた訓練・研修を各学期に実施する。	教頭と総務部・保健部が立案し、全職員で取り組む。	B	毎学期定期的安全点検を実施し、必要な事後措置がとれた。防災訓練は、消防署で実施し、防災意識を高めることができた。
学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業の実施	各教科、1回以上の研究授業を行う。	教務部が立案し、全教科で取り組む。	B	各教科、1回以上の研究授業を行った。公開授業週間を設定し、授業の公開を行った。周知方法や時間設定等に工夫が必要である。
	基礎学力の向上	基礎力養成講座の実施と充実	総合的な学習の時間等を活用し、年20回以上実施する。	教務部が立案し、全学年、全教科で取り組む。	B	幅広く一般常識を学ぶ機会とした。次年度は教科面だけではなく、礼節やマナーなどを学ぶ機会としてキャリアアップ講座も設定していく。
キャリア教育(進路指導)	個に応じた進路指導の推進	進路目標の明確化と進路決定率や就労率の向上	卒業予定者の進路決定率を100%に高める。就労率を60%に高める。	学期ごとの進路面談の実施。進路部と担任との連携を深める。	B	卒業予定者の進路決定が十分でなかった。在校生の就労率は約60%に上昇した。
	進路意識の高揚	インターンシップや進路講話などの実施	未就労者対象のインターンシップの実施。講話等は学期1回は実施する。	進路部が立案し、外部機関との連携を密にし、全職員で取り組む。	B	効果的な進路指導を行うことができた。次年度は更に生徒の実態に応じて、計画的な準備を行う。

生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	生徒会活動や学校行事（交通安全教室等）における生徒・教師の相互の活動を通じて推進する。	生徒指導部を中心に、生徒・職員全体で取り組む。	B	交通安全教室を自動車学校の協力でいい、意識向上に努めた。
		言葉遣い、時間厳守等の基本的生活習慣の確立	授業や様々な活動を通じて取り組み、毎日の学校生活の中で高める。	生徒指導部を中心に、生徒・職員全体で取り組む。	C	携帯電話使用のマナー向上、適切な言葉遣いが課題である。
	健康教育の推進	禁煙指導・薬物乱用防止の徹底	喫煙状況調査と健康に関わる講話を実施する。	生徒指導部と保健部との連携により取り組む。	C	薬物乱用防止の教室を行った。禁煙指導を推進するのが課題である。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	年間計画の作成と研修会の実施	特別活動（LHR）での研修会の実施と授業計画表を作成する。	人権・特別支援委員会が立案し、学校全体で取り組む。	B	全職員が1回以上は研修会に参加することができた。
	「命を大切にす る心」を育む指 導の推進	「命」や「生きるこ と」について考えさせ、自己肯定・自己実現、友人関係の良好な構築などに繋げる。	本校独自のプログラムを完成させ、学校行事以外の授業等も系統的に繋がるよう調整する。	学校行事（特設LHRや総合的な学習の時間など）や普段の授業においても、全職員で常に意識して取り組む。	B	生徒理解研修や連絡会での生徒の情報の共有を図り、各部の行事も、生徒一人ひとりを考えて計画した。
	教科指導におけ る取り組みの推 進	「分かる授業」の工夫と改善を図る。	生徒の課題に応じた指導の工夫をする。	全教科・全職員で取り組む。	B	一斉授業に対応できない生徒には、個別に対応する体制ができています。
いじめの防止等	いじめの未然防止と事態への対応	いじめ防止対策委員会および校内委員会を中心とした取組	いじめ件数0を目指して、全職員で情報の共有をはかり、迅速な対応を心がける。	各学期においていじめアンケートを実施し、全職員でいじめを許さない学校づくりを心掛ける。 年間を通じていじめ防止への意識を高く持ち、「心のきずなを深める月間」の6月には、人権教育LHRを実施し、また、「いじめ防止標語」を生徒たちに作成させ、いじめ防止の気持ちの涵養をはかる。重大事態発生時には、いじめ防止基本方針及び策定マニュアルに基づいて全職員で迅速に対応する。	B	6月の「心のきずなを深める月間」では、アンケートの実施及び「いじめ防止標語」の作成、学年別にテーマを設けた一斉人権教育授業を計画的に行うことができた。また、年間を通じて、生徒の課題に応じて担任及び各部と情報を共有し、解決に向けて取り組むことができた。
特別支援教育	生徒の教育的ニーズに対応した支援の推進	個々の生徒に応じた支援計画の実施	生徒の観察と情報交換を行い、支援方法を計画する。	生徒理解研修や日々の連絡会等を通して、全職員で組織的に取り組む。	B	日々の連絡会等、職員間で情報の共有ができ、さらに外部の支援機関とも連携がとれた。
環境教育	地域と連携した環境教育の推進	「環境都市みなまた」実現のため学校版環境ISOの取組	全日制と連携を図り、定時制としての取組を強化する。	生徒指導部を中心に保健部と連携して取り組む。	A	エコスクールチェックシート等を通して、ゴミ分別に対する生徒の意識が向上した。
	学習環境の整備と推進	学校生活を快適にするための環境づくり	教室や多目的室等の清掃活動を毎日実施する。	生徒・職員全体で取り組む。	B	大掃除等熱心に行ったが、日々の掃除に参加できていない生徒もいた。
家庭・地域との連携	地域への定時制教育の周知	学校行事を通しての定時制教育活動の広報と周知	文化祭開催を通して、定時制教育の周知を図る。	生徒会を中心に立案し、学校全体で取り組む。	B	定通総体、定通文化大会、文化祭等の諸活動が、「定時制便り」等で保護者へ周知できた。
			HPの更新を週に1回以上行う。	副校長、教頭、情報管理者を中心に取り組む。	C	写真を添えた記事を準備したが、週に1回の更新には至らなかった。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	「水高定時制だより」を毎月発行し、必ず家庭へ届ける	総務部を中心に各係と連携して生徒への配付以外に月末に家庭に送付する。	B	終業式や各行事への保護者の参加率が多くなった。配布物は毎月、郵送で送付することができた。
		月末統計の実施	「月末統計」を毎月、各生徒の保護者に届ける。	教務部を中心に全学年で取り組む。	A	「月末統計」を保護者に配布することによって、欠課時数の周知ができた。

4 学校関係者評価

学校評議員会及び定時制PTA役員会において、主に次のような評価や意見をいただいた。

- ① 定時制教育を通して、年齢とともに子どもたちが少しずつ成長してくれていることを感じる。今後とも、多様な課題や教育ニーズに対応した支援ができるような工夫や環境整備に努めてもらいたい。
- ② 保護者としては子どもがどのように授業を受けているのかなど、学校の様子をできるだけ知りたい。親が学校に来ることを嫌がる生徒もいると思うが、保護者が学校に行きやすくなるように敷居を低くする工夫をしてほしい。
- ③ 子どもたちのコミュニケーション力を高めていくことの大切さはいくらでもないが、子どもと保護者、保護者同士のコミュニケーションや連携も図っていくことも重要である。
- ④ アンケートの質問項目によっては、保護者として学校の現状を把握できていないため、どう回答していいのか迷うものがあった。保護者・地域への情報発信については、今後とも一層の創意工夫をお願いしたい。

5 総合評価

21項目の評価項目に対し、A評価が2項目、B評価が16項目、C評価が3項目であり、全般的には、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践ができたと考え。全職員による日々の声掛け、面談、カウンセリング等を継続して行い生徒の抱える課題等の把握に努め、生徒理解研修による情報共有や指導法の改善も効果的に働き、個々に応じた支援につながった。

特に、A評価の項目に関しては、学校評価アンケートにおいて、「私はごみの分別や掃除を積極的に行っている（生徒）」のA評価の割合が14%から48%に、「教育活動の様子が家庭や地域によく伝えられている（保護者）」のA・B評価の割合が77%から92%に増えている。今後とも学校版環境ISOの取組の充実を図り、保護者・地域等への情報発信の在り方を工夫していく。

また、C評価の項目に関しては、基本的な生活習慣についての取組を問うアンケート項目のA・B評価の割合が、保護者及び職員では90%以上であるのに対して生徒では68%となるなど、生徒・保護者・職員間で意識の隔たりも見られ、共通理解を図るとともに指導等の工夫改善を進めていく必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

評価目標を十分に達成できなかった項目は言うまでもなく、達成状況が良好な項目においても次年度への継続課題と考え、PDCAサイクルの中で常に見直しを行い、指導の充実を図っていく。

その中で、特に次の3つの課題について重点的に取り組みたい。

- ① 組織的な生徒理解の促進と教育実践力の向上
生徒一人ひとりの抱える課題は様々であり、課題解決に向けてそのニーズを的確に把握し、組織的に対応していくことが欠かせない。そのために、全職員が連携して生徒と触れ合う時間を確保し、生徒理解研修等をさらに充実させることで、組織的な指導法等の改善を推進していく。
- ② 保護者及び地域、関係機関との連携の充実
本年度から公開授業への参観を保護者及び出身中学校へ案内したり、終業式への保護者の参加を呼びかけたりして連携の充実を図った。次年度は、更に周知方法や実施の在り方等を工夫し、参加者の増加につなげる。また、ハローワークやスクールカウンセラー等との連携もさらに充実させることによる生徒・保護者の支援に努める。
- ③ 情報発信の創意工夫
小項目の「地域への定時制教育の周知」においては、評価がAからCまでばらついており、情報発信の在り方についての創意工夫が必要である。その要因等の情報を多方面から収集し、多角的に分析検討し具体的な改善につなげる。